

2026年度 大学院研究科共通 講義概要(シラバス)



法政大学

科目一覧

〔発行日：2026/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス（<https://syllabus.hosei.ac.jp/>）で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【X1901】 日本語論文作成A〔金子 広幸〕 春学期授業/Spring	1
【X1902】 日本語論文作成B〔金子 広幸〕 春学期授業/Spring	2
【X1911】 研究者のための教授法演習〔北村 士朗〕 秋学期授業/Fall	4

日本語論文作成A

金子 広幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水1/Wed.1 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、大学院で論文（修士）を執筆するために必要なアカデミックな日本語の力を向上させることを目的とします。
 このクラスの対象者は日本語の文章作成の経験があまりなく、まずはアカデミック・ライティングの基礎固めを希望している人です（JLPTのN2以上）。授業では、毎回、①論文を書くための表現を学び、②活動を行います。活動としては「書く活動」（1,500字程度の小論文を書く）と「話す活動」（アカデミックなプレゼンテーションと質疑応答）を行います。
 ※第1回目の授業で、レベルチェックと面談を実施し、2回目から授業が始まります。受講希望の方は、第1回目、第2回目の授業に必ず出席してください。

【到達目標】

受講者は、以下のことをめざします。
 ・論文を書くための基本的な表現を用いて、アカデミックな文章が書けるようになる。
 ・問いを立て、日本語でプレゼンテーションが論理的にできるようになる。
 ・論文の基本構造を学び、論文を書くためにはどのように発想をしなければならぬかがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

【このクラスは春学期だけの開講です】
 学期の前半では、書く活動（1500字程度の小論文執筆）を行います。
 学期の後半では、話す活動（プレゼンテーションと質疑応答）を行います。
 前半と後半の両活動を中間・期末テストの評価対象とします。
 それ以外にも、小テストや宿題があります。
 受講者のレベルに応じて、別途、配布資料で指導します。
 課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う予定です。
 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	課題作文と面接	レベルチェック
2	論文作成の基礎 論文作成の基礎事項を学ぶ	論文全体がどのような構成になっているか学ぶ
3	論文作成の基礎 テーマ、理由、経過を述べる	各自の論文のテーマから内容を取り上げ、その表現を学ぶ
	【発表：自分の研究テーマ①】	
4	論文作成の基礎 定義を述べる	判明していることを述べる
	【発表：自分の研究テーマ②】	
5	論文作成の基礎 問題点、解決策を述べる	課題としてあげられることや、その解決策を表現する方法を学ぶ
	【発表：先行研究①】	
6	論文作成の基礎 手順を述べる 指示詞を使う	論理を明確にするための手順の表現を学ぶ。 指示詞を明確に使う方法を学ぶ
	【発表：先行研究②】	
7	論文作成の基礎 引用する	先行研究などから引用する方法を学ぶ
	【発表：先行研究③】	
8	各自の研究論文 研究要旨	研究要旨を書く
	【発表：研究手法①】	
9	各自の研究論文 論点の解説	特に注目される論点について、論述する方法を学ぶ
	【発表：研究手法②】	
10	各自の研究論文 分析と結論	分析と結論の表現を学ぶ
	【発表：研究手法③】	

11	各自の研究論文 図表・グラフ・データを解説する方法を学ぶ	図表・グラフ・データを解説する方法を学ぶ
	【発表：ミニ調査研究①】	
12	各自の研究論文 結論を書く	結論として得られたものも、論述する方法を学ぶ
	【発表：ミニ調査研究②】	
13	各自の研究論文 提言・展望をかく	結論として得られたものをもとに、どのように提言や展望を書くかを学ぶ
	【発表：ミニ調査研究③】	最終提出物を出す
14	発表・評価 最終提出物を公開評価	各自の研究論文のまとめと解説
	【研究要旨・目次・参考文献リストから構成】	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の執筆本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のものはありません。
 以下の【参考書】を参照してください。

【参考書】

アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語② 作文編』（2015）アルク（1,600円+税）978-4757426320 友松悦子『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）
 二通信子『留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）
 二通信子『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加度:20%
 課題作文の提出率と充実度:20%
 各自の小論文40%
 プレゼンテーション20%
 ＊欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

●「論文の間違ひは直接直してほしい」という意見がありました。しかしこれでは自分で直す力がつきません。そこで直す時間を1週間とって、自宅でじっくり時間をかけて直してくる体制にしました。
 ●全部の回がオンラインなので、オンラインで上手に発表する方法を学べたという意見がありました。これからの学術の世界では、これはとても大切なことです。「図表・グラフ・データを示す活動」もありますが、この時には、オンラインで発表する方法をより深く学びます。
 ●実際に書いたものを画面上に見せながら、指導者・クラスメイトと直していく方法が役に立ったという意見があったので、これを取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン参加のためのZOOMができ、Google Classroomで課題がやりとりできるパソコン。

【その他の重要事項】

＊授業の1週目、2週目に出席してください。3週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。
 ＊クラスの人数が多い場合は選考します。
 ＊このクラスは2023年度まで「アカデミック日本語4（論文作成基礎）S」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることではできません。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to enhance the academic Japanese ability for writing a master's thesis. The subjects of this class are those who have little experience in writing Japanese and want to solidify the basics of academic writing (JLPT N2 or higher).

In each class, you learn the expressions for writing a dissertation and carry out activities. Activities include "writing" (writing an essay about 1,500 characters) and "speaking" (academic presentation and Q & A). The standard time for preparation and review in this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following In-class contribution :20%, Submission rate and quality of assigned essays: 20%, Term-end essay: 40%, Final presentation: 20%.

* Level check and interview are conducted in the first lesson, and the lesson starts from the second class. Students wishing to register to the class must attend the first and second lessons.

【Others】

※ This class was called "Academic Japanese 4 (Basic Thesis Writing) S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※ The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

日本語論文作成B

金子 広幸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：市ヶ谷 / Ichigaya
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスは、大学院で論文（修士・博士）を執筆するために必要なアカデミックな日本語の力を向上させることを目的とします。このクラスの対象とする学生は、すでにアカデミック・ライティングの基礎力があり、さらにすでにレポートや小論文のライティングの経験がある人です（原則として日本語能力試験（JLPT）のN1合格者としします）。

授業では、毎回、

- ①論文を書くための表現を学び、
 - ②活動を行います。活動としては、学期の前半に「話す活動」（自分の論文の研究計画のプレゼンテーションと質疑応答）を行い、学期の後半に「書く活動」（4,000字程度の論文形式で、自分の論文の概要を書く）を行います。
- ※第1回目の授業で、レベルチェックと面談を実施し、2回目から授業が始まります。受講希望の方は、第1回目、第2回目の授業に必ず出席してください。

【到達目標】

受講者は、以下のことをめざします。

- ・日本語で、研究計画のプレゼンテーションがきちんとできるようになる。
- ・論文の序章・本論・結論の各構成要素を学び、適切な論文表現を用いて、自分の論文の概要が書けるようになる。
- ・論文執筆のために、自分が収集しなければならない資料や情報が何なのかを考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学期の前半では、話す活動（自分の論文の研究計画をプレゼンテーションする）を行います。学期の後半では、書く活動（4,000字程度の論文形式で、自分の論文の概要を書く）を行います。前半と後半の両活動を中間・期末テストの評価対象とします。それ以外にも、小テストや宿題があります。必要なら、受講者のレベルに応じて、別途、配布資料で指導します。課題等の提出・フィードバックは「Google Classroom」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	課題作文と面接	レベルチェック
2	アカデミックな書き方（アウトライン作成に必要な基本事項）	課題・目的の提示
	【発表：自分の研究テーマ①】	
3	アカデミックな書き方（定義 分類 図表の提示の表現）	定義 分類 図表の提示の方法を実際に示しながら学ぶ
	【発表：自分の研究テーマ②】	
4	アカデミックな書き方（変化の形容・対比と比較の表現）	変化の形容・対比と比較の表現を学び、発言しながら学ぶ
	【発表：先行研究①】	
5	アカデミックな書き方（原因の考察 列挙 引用の表現）	原因の考察 列挙 引用の表現を検討して作成、発表の方法を学ぶ
	【発表：先行研究②】	
6	アカデミックな書き方（同意と反論 帰結 結論の提示の表現）	同意と反論 帰結 結論の提示の表現を学んで、記述として準備する。
	【発表：先行研究③】	
7	各自の研究論文（要旨の書き方）	要旨の書き方を確認し、共有する。
	【発表：研究手法と発表①】	
8	各自の研究論文（研究概要の書き方）	研究概要の書き方を確認し、発表して学ぶ
	【発表：研究手法と発表②】	

9	各自の研究論文（研究課題の書き方）	研究課題の書き方を確認し、発表して学ぶ
	【発表：研究手法と発表③】	
10	各自の研究論文（論理の展開、結果の分析の表現）	論理の展開、結果の分析の表現を確認し、発表して伝えることを学ぶ
	【発表：ミニ調査①】	
11	各自の研究論文（結果の提示方法）	結果の提示方法を考察し、発表して学ぶ
	【発表：ミニ調査②】	
12	各自の研究論文（結論の提示方法）	結論を述べる表現を確認し、発表して学ぶ
	【発表：ミニ調査③】	
13	各自の研究論文（結論の提示と提言・展望）	最終提出物を出す 提言・展望についての表現を確認し、発表に繋げる。
	発表・評価	発表の流れを確認する
14	最終提出物（要旨・目次・参考文献から成る）を公開評定	発表・論文のまとめと解説を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。

必要なら以下の【参考書】を参照してください。

【参考書】

アカデミック・ジャパニーズ『改訂版 大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（2015）アルク（1,800円+税）978-4757426344

石黒圭『留学生のためのここが大切文章表現のルール』（スリーエーネットワーク）

友松悦子『小論文への12のステップ』（スリーエーネットワーク）

二通信子『留学生のための論理的な文章の書き方』（スリーエーネットワーク）

二通信子『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』（東京大学出版）

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20％

課題論文の提出率と充実度：20％

各自の論文：40％、

最終プレゼンテーション：20％

※欠席を4回以上すると単位は出ません。

【学生の意見等からの気づき】

● 絵画などの図、構想のイメージ、データに基づいたグラフ、調査結果の数値の表などを指し示しながら、自分の研究の概念や進め方などを説明する練習が役に立ったという意見がありました。そこで、このクラスの後半でも、この意見に基づいて発表があります。

● 修了生が最も苦労したのは「書き言葉」と「話し言葉」の切り替えだったという意見がありました。そこで、論文の文面は、書き言葉で書き、その内容を話し言葉に切り替えて、わかりやすく説明するプロセスを練習します。

● わかりやすいスライドを作れるようになったという意見がありました。クラスではスライドの他にレジメの装丁などについても学ぶことにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでズームなどが使え、課題等のやりとりをGoogle Classroomでできるパソコン

【その他の重要事項】

※授業の1週目、2週目に出席してください。3週目に初めて来る学生は、原則クラスを取ることができません。

※クラスの人数が多い場合は選考します。

※このクラスは2023年度まで「アカデミック日本語5(論文作成応用)S」の名称でした。過去に旧クラスの単位を取った学生は、再度このクラスを取ることにはできません。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to enhance the academic Japanese ability for writing a dissertation (master and doctoral). The subjects of this class are those who already have the basics of academic writing and have written reports and essays (in principle, those who have passed the N1 level of the Japanese Language Proficiency Test (JLPT)).

In each class, you learn the expressions for writing a dissertation and carry out activities. In the first half of the semester, you conduct a "speaking activity" (presentation of your dissertation research plan and Q & A), and in the second half of the semester, a "writing activity" (an overview of dissertation about 4,000 characters).

The standard time for preparation and review in this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution :20%, Submission rate and quality of assigned essays: 20%, Term-end essay: 40%, Final presentation: 20%.

* Level check and interview are conducted in the first lesson, and the lesson starts from the second class. Students wishing to register to the class must attend the first and second lessons.

【Others】

※ This class was called "Academic Japanese 5 (Advanced Thesis Writing) S" until FY2023. Students who have earned credits in the past will not be able to take this class again.

※The selection will be held if the number of applicants exceeds the class size limit.

OTR700S1（その他 / Others 700）

研究者のための教授法演習

北村 士朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：市ヶ谷 / Ichigaya

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に大学教員を目指す博士後期課程の大学院生を対象とし、教育力を兼ね備えた研究者となることを目指すブレFD科目。
研究者としての授業を行うための知識やスキルを、自身の専門分野に関する初学者向け概論科目のシラバス作成・ガイダンス実施や模擬授業を題材とした演習を通じて修得することを目的とする。

【到達目標】

1. 自らの研究分野の概要と魅力を初学者や専門外の人向けに紹介できる。（この紹介はイベント等、授業以外でも活用可）
2. 自らの研究分野を活かした学部生（初学者）向けのシラバス（プロトタイプ）を、インストラクショナル・デザインの諸理論・モデルを用いて設計し、到達目標・評価方法・授業計画を明示した形で作成できる。
3. 演習課題とした科目の模擬ガイダンス演習で、受講に向けた学生のモチベーションを高められるような導入ができる。
4. 演習課題とした科目の模擬授業で、初学者である学部生向けの効果的・効率的・魅力的な講義ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【主な授業方法】

E 実験/実習/実技 /Experiment、L 講義 /Lecture

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使ったオンデマンドの講義、Web会議システム(Zoom)を使ったリアルタイムオンライン演習、対面での演習を組み合わせて行う。オンデマンドの回は、指定された期間内であればいつでも学習しても構わない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 大学教員になる、ということ	(オンデマンドで実施) コース全体の流れ、到達目標、評価基準などの説明。現代の大学教員に求められる役割や資質について学ぶ。(対面で実施)
第2回	演習 授業ガイダンスを想定した自己紹介	授業初回（ガイダンス）の冒頭を想定した自己紹介を行い、自己紹介に求められるものは何かをディスカッションし、各自の自己紹介の改善点を整理する。
第3回	シラバス試作(1) ゴールラインを引く	(オンデマンドで各自学習) ①受講者を見定める ②科目の概要を仮決める ③評価方法を決める ④到達目標（ゴール）を設定する
第4回	シラバス試作(2) 何を学ばせるか？	(オンデマンドで各自学習) ⑤到達目標をブレイクダウンする
第5回	シラバス試作(3) どう学ばせるか？	(オンデマンドで各自学習) ⑥コース（科目）全体を通した、受講者の活動、必要なリソース、フィードバックのデザイン
第6回	シラバス試作(4) 各セッションへのブレイクダウン	(オンデマンドで各自学習) ⑦各セッション（授業回）の、受講者の活動、必要なリソース、フィードバックのデザイン
第7回	シラバス試作(5) シラバスとして整える	(オンデマンドで各自学習) ⑧シラバスとは？ ⑨評価方法と基準を整える ⑩全体を整える
第8回	演習 シラバス説明と相互評価(1)	(Zoomでリアルタイム実施) 試作したシラバスをプレゼン（説明）し、クラス内で相互評価する。要改善点を整理する。
第9回	演習 シラバス説明と相互評価(2)	(対面で実施) 第8回で整理された要改善点を反映させた改善版をプレゼン（説明）し、クラス内で相互評価する。

第10回	模擬授業準備（1）	(オンデマンドで各自学習) ①模擬授業部分の選択 ②アウトラインを引く
第11回	模擬授業準備（2）	(オンデマンドで各自学習) ③スライドと資料の準備
第12回	模擬授業準備（3）	(オンデマンドで各自学習) ④話し方とリハーサル
第13回	演習 模擬授業（1）	(Zoomでリアルタイム実施) 各自の専門分野のうち、自分が初学者に最も学ばせたい（伝えたい）部分10分間を講義。終了後にフィードバックを受け、要改善点を整理する。
第14回	演習 模擬授業（2）	(対面で実施) 第13回の指摘を反映させた「改善版」を講義する。 授業後に科目全体を省察し、リフレクションレポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
・授業準備：教科書、参考書、動画やWebサイトの指定部分の講読・閲覧、演習準備
・復習：各回を省察するリフレクションレポート、提出した課題類の修正・改訂

【テキスト（教科書）】

「上手な教え方の教科書、実践編」, 向後 千春 (著), 技術評論社, 2025年
・本書は紙の書籍、電子書籍、出版社オンラインショップ (<https://gihyo.jp/book>) のPDF版など、複数の形式で入手できる。

【参考書】

各回の授業内容に関連した書籍や論文を授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

以下の各課題の点数を合計して成績を評価する。評価基準の詳細は授業で説明する。

1. シラバス説明：30点（初学者向けの概論として適切か）
 2. 模擬授業：30点（初学者向けの授業として適切か）
 3. 各回のリフレクション：各回2点 合計28点（適切に省察しているか）
 4. 科目全体のリフレクションレポート（12点）（適切に省察しているか）
- 以上の全てを実施または提出し、それぞれ60%以上得点することを単位取得条件とする。
また、ディスカッションや相互コメント等を通じたクラスへの貢献に応じて加算する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規開講科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやZoomで視聴・入力・プレゼン等をするための端末類（パソコン等）

【その他の重要事項】

本シラバスの内容は受講者数等により変更される場合がある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
教育工学
<研究テーマ>
インストラクショナル・デザイン、授業法、FDなど
<主要研究業績>（授業法関連）
・「知財人財育成のための講師養成手法の開発と実践」, 共著, 2012 PC Conference 論文集 PP.341-344, 2012/8
・「知財人財育成のための講師養成手法の開発と実践 (2)」, 共著, 2013 PC Conference 論文集 PP.217-220 2013/8

【Outline (in English)】

(Course outline)

This “pre - FD” course provides foundational teaching skills through on - demand content, live online sessions, and in - person workshops, focusing on research communication, syllabus design, and micro - teaching.

(Learning Objectives)

Students will be able to explain their research to non - specialists, design an undergraduate - level syllabus, and deliver effective micro - lectures with iterative improvement.

(Learning activities outside of classroom)

Students spend about two hours per week preparing assigned materials, drafting their syllabus, creating slides, and writing brief reflections.

(Grading Criteria /Policy)

Grades are based on syllabus presentation, micro - teaching, weekly reflections, and a final reflection report, with at least 60% required for each component.

